# 婦人と新社會

山田わか主筆

## 八月號


唯物史觀と科學

所謂產兒制限論者の短見

結婚生活と自己

市民と市政

革新會の第一義務

運動競技に附て

—編輯の後—



大正九年三月二十三日第三種郵便物認可
大正十五年七月二十三日印刷納本

毎月一回一日發行　第七十七號　大正十五年八月一日發行

東京　婦人と新社會發行

# 唯物史觀と科學

プロレタリアとブルジョアと二つにして社會を眺めてゐる人は科學までをも二つにして考へてゐる。そして、露國勞農政府おかゝへの社會學者と云はれる大立物ブハリンは其の筆頭である。が、科學と云へば、直ちに、科學の法則と云ふことが思ひ出されて、そして、其の法則とは自然法を云ふのであるが、其の自然法なるものが二つあると彼等は考へてゐるのであらうか？

勿論、科學を應用する人の人生觀によつて結果には相違が出て來る。

電氣は一般人の便宜の資料ともなれば、又は、禍の資料ともなると云ふように。つまり、電氣は使用法によつて善となり、惡となる、則ち二つになる。

けれども、自然法が一つである限り、科學、絶對に一つである。ブルジョアの科學とかプロレタリアの科學とか云ふものがありよう筈はないのである。

もう一つ。彼等が主張する通りの社會が實現することになると、勞働者自身が經營の方面をも處理することになる。併し、勞働者は勞働の方面に於てこそ熟練を現すことが出來ても經營の方面には全く無經驗である。其處で勞働することはやめて、專門的に經營術を學ばねばならない。そして再び經營家と云ふものが勞働者の中から生れて來るわけである。經營家ばかりではなく、政治家、經濟家も勞働者の中から生れて來なければならない。

要約すれば、勞働者のうちから、さう云ふ知力階級が生れて來て、そして、さう云ふ階級の子供は其の階級に屬する者であるし、例外はあつても、やはり、知力的の仕事をするだらう。

社會を支配するものは何と云つても思想である。そして、思想は知力階級の武器であり生命である。故に、社會を支配ずるものは結局知力階級になつてしまう。

して見たならば、彼等の主張する社會も結局は今の社會と同じになつてしまう。

要するに、凡てが人間の質の問題である。人間が善良で公平であるならば其の人に使用される科學は好結果を生むし、邪惡で不公平であれば惡結果が現れる。

唯物史觀を唯一の信條としてゐる產業經營者に我々は多きを望むことは斷じて出來ない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 所謂産兒制限論者の短見

## 一

中學校へ通ふようになつて、それ迄に全然知らなかつた知識のほんのはじッかけを始めて摑むと氣持ちが急にゑらくなつて宇宙萬物の一切を知り盡したような顏をする少年が少くない。

その無邪氣な誇大妄想を親は大抵ほゝ笑んで見て過してしまうか、さもなければ其の誤想を矯正してやるのが普通だが、もし、親に其の聰明さと力がない時には子のためにも親のためにも不幸である。

科學を萬能とする現代人の思想は、丁度、此の中學生に等しく、そして、産兒制限主張論は此のなま半可な思想の結果であらうと私は考へてゐる。

産兒制限論者の口ぐせは、生みたい時に生んで、生みたくない時には生まないと云ふのであるが、妊娠と云ふことはさう希望通りに行くものではない。

妊娠をさへぎることは出來ても、不妊をして妊娠せしむることは殆んど絶對に不可能と云つていゝ。醫學は進んだとは云へ、希望者に妊娠せしむると云ふことは不可能の領域に屬してゐる。すぐお隣りに、すぐ目の前に、人智の屆かない神秘の範圍があるにも拘らず、人智をもつて左右し、平氣で其の神秘の領域に人工を加へようとすることはなま半可も甚だしく、潜越至極であらうと私は思ふ

## 二

世間には所謂『成金』とか『成り上り者』とか云ふ一種の人間があつて、常に輕侮の目を投げられてゐるが、一度は無一物であつた人間がもの持ちになつたからと云つて、もの持ちになつたこと其れ自身が卑しめられるのではなく、ものを持つてゐるわり合ひに品性が下劣であるからであらう。持ちものが殖へるに比例して品性が向上してゐるならば素寒貧が百萬長者になつても誰も其の人を『成り上り者』と云つて卑しめず出世したと云つて尊敬する。

　生きて行くに必要なだけ食ふことは萬人に等しく與へられた天賦の權利であらう。けれども同じ食ふにも其處に精神的要素が加味してゐて始めて人間らしいので、食ひさへすればいゝのであつては人間と下等動物との間の區別が無くなつてしまう。

　經濟的にも智力的にも、まだ、人の親となるべき何等の準備が無い先きに性的には目覺る。が、其の生理的の要求を精神の力で抑制することによつて――抑制せしむるように教育者、親其の他の周圍がしむけることによつて――少青年の精神力は發達する。かくして、下等動物と同じなる生理的の要求のみによる性的生活ではなく、人間らしい精神の加味した戀愛生活、及び、生殖が營まれる。

　精神的な人間となり、人生の意義及び快樂は性的行爲の遂行のみではないと云ふことを自覺するようになれば、子供は生みたくても澤山生まれるものではない。それは事實が證明してゐる。故に、人間を高尚にして行けば産兒は自然に道德的に制限される。むしろ、少な過ぎて困るようになるだらう。

　少青年を高尚に精神的に導かうとはせず親となる資格が無いけれども性慾に惱んでゐるから器械的産兒制限を實行させて性慾の滿足を得させようとする産兒制限論は人間の精神の力を無

視し、下等動物の水準に人間を引き下げようとするものである。

　大きな財力を持つ精神的の資格のない「成り上り者」と同じように、肉慾のみによつて性的行爲を早期に始めた人間は微妙に豊かな深い戀情を味ふことなく、道義觀念の放慢な感情の粗笨な卑しむべき人間になつてしまう。と云ふことは、抑制と云ふことを知らない性的生活を送つて來た今迄の男子達が充分に證明してゐる。

## 三

子供が多いと教育が充分に出來ないと云ふことも産兒制限主張の一ッの理由になつてゐるようであるが、これは現代の教育病にかゝつて、教育の意味を取り違へてゐる結果である。

　教育と云ふことが單に學校へ送り本を讀ませることであるならば、成程、五人の子供にかける費用を二人の子供にかけることが其の二人の子供をしてより長い間學校へ通はせ、より多くの本を讀ませられるわけだが、併し、本當に優良な人間は學校ばかりで乃至讀書ばかりで出來上るものではない。

　金をかけさへすれば、學校へ送りさへすれば人間が優良になれるものならば金持ちの家に生れた人間は皆優良である筈だが、併し、事實は大抵其の反對である。むしろ、人類社會のために有益な人材は生れた家が貧乏であつたり、兄弟姉妹が多かつたり、學校教育も充分に受けてゐなかつたりする場合が少なくない。

　「優生學の立場から」など、云ふと、其處に何にか深い理窟がありそうに人は思ふかも知れないが、併し、これもやつぱり、人間の弱點の一ッ、澤山の子供を生み育てる苦勞を避けようとする横着な心の現れであるに過ぎないと私は思つてゐる。

## 四

人口過多が、今、多方面の問題になつてゐる

ので、産兒制限主張者は得たりかしこしであらうが、と云つて、これを直ぐ産兒制限論に喰付けて行く程、我が國の爲政者は淺薄な頭では無いだらうと思ふ。併し、どうだか分らないが。

我が國が英米と比較して貧乏であることは事實である。國の面積のわり合ひに人口が多いことも事實である。けれども、此の人口が食ふことゝ着ることとも出來ない程貧乏ではない。衣食が充分でない人間があるのも事實だが、それは我が國内に絶對に物資が缺乏してゐる結果ではなく、分配の方法が惡いからである。世界一富裕な米國にも衣食に窮してゐる人間がある。故に、貧民の存在が其の國の貧乏さの標準ではない。

我が日本は國としては小さくて貧乏であるとは云へ、一人で何十人分何百人分の土地を占有したり、必要品と切りかへれば何十人何百人分の衣食の料となるものを一人で贅澤に費したりしてゐる。

さう云ふ浪費や、酒につぶす米や、藝娼妓の存在を支へる金などを眞面目な生活の方向へとさし向けるならば、まだ〳〵どん〳〵人口が殖へても一向差し支へはない。

都會の青年男女の日用品が此の頃奢侈に流れて來たことは實に驚くばかりである。それだけ一方には苦しめられてゐる階級があるには相違ないが、とにかく、こう云ふ奢侈の流れはまだ〳〵我國に餘裕のあるしるしである。

人口が過多處ではない。地方の田畑が荒廢に傾いてゐることや、北海道又は宮崎縣あたりに未開墾地が澤山あることなどは、人手、即ち、人口の少ない證據ではないか。

成程、人間が働らかずに食べて居れば、いつか食物は盡きてしまう。故に、遊食の人間なら一人でも少ない方がいゝにきまつてゐる。けれども、働く人間ならどんなに多くても少しも差

支へない。彼等は生活に必要なものを何なりと造り出すのであるから。

貧乏だとは云へ、土地があり、山があり、海があつて、其處には無限の原料が藏蓄されてあるが、その原料を收獲するには一々人間の手が必要である。人の手が無ければ有益なものは何にも得られない。

人間があつて始めて物資が必要である。且つ人間があつて始めて物資が産出される。自分は何にもしないで人が造つたものを消費して生きてゐる徒食人、寄生蟲はどんなに少なくても多すぎるが、働く人間、生産的な人間はどんなに多くても決して多すぎない。多々益々よろしいのである。故にいくらでも生れて來る人間を皆生産的な有益な人間と爲すように、識者の全部は努力すべきである。

實に、人口は一國の殊に我が國の富源であり力である。故に、人口の増加率を低減させようとすることは國の富源と力とを減退させようとすることである。

百有餘年も前にマルサスが食物は算術的にしか殖へないのに人口は幾何學的に殖へると云つたと云ふのを基礎に其の後のマルサスの知らない、知らないから勘定に入れて置かなかつた人知の發達、機械産業、大量生産の事實を無視して、産兒制限論を稱へてゐるのは、むしろ、滑稽の沙汰である。

## 五

要するに、今の人間の頭には生殖のことはまだ半分しか分つてゐない。生まれようとするものを止めることは出來ても生れないものを生むことは出來ないと云ふことは前にも云つて置いた。どん／＼生れるからいゝと云つて、生れない方法を敎へてしまつて、それが一般に惡用されるようになつて人口が減退して行つて、國家の存亡にかゝはるようになつて「さア人口が足

りなくなつた、生んで欲しい」と云つても、さう注文通りに生れるものでないと云ふことは明らかである。

　こう云ふ神秘に屬する事柄に手を付けずとも爲さねばならない仕事は到底爲し終はせない程澤山あるから、先づ、その方面に今の人間は努力すべきだと私は考へる。

　何百年、又は、何千年の後には人間が多過ぎるだろうなどゝ云ふのは餘計な心配である。未來は未來の人間を信頼して可なりである。

　唯、今の我々のつとめは未來に害を殘さないように愼しむことである。

　姙娠、分娩に耐へきれない弱い母體を保護するため、又は、低能者、白痴、精神病者、常習犯罪者、大酒者、癲病者などが其の惡質を後へ殘さないためと云ふ理由が一方にはあるが、これ等は全然病人である。病人は病人として適宜に取扱つて差し支へないが、さう云ふ病人や不具者を標準として心身の健全な一般國民を律しようとすることは是れ等の國民に對して大きな侮辱であると云ふことは一度本誌上に書いて置いた。

# 結婚生活と自己

　一旦事あつた場合、良人乃至戀人と親との間に板挾みとなつて、親に從ふべきか良人につくべきかと云ふ岐路に立つた婦人の取るべき態度に付て或る雜誌は問題としましたがこう云ふ問題は個々別々であつて、かくすべきだと千ペン一律に定めてしまうことは出來ないと思ひます

我が國の習慣からすれば親に從ふのであるし西洋流に云へば良人乃至戀人につくのですが、「親に從へ」と云ふ我が國の敎へは「親は慈悲、公平」其のものであるとの假定に出立してゐるのです。

　西洋では、夫につくのが習慣になつてゐるとは云つても、あながち、親は捨てゝも良人につけと敎へるのではなく、「十八歳までは親の命令に、十八歳以後は神の命令に從へ」と敎へるので、つまり、十八歳になれば自分の良心に訴へて身を處置しても正道を行けるものと假定してあるのです。

　ですから、我が國の習慣と西洋の習慣との外面的の差は著しいようであつても併し、さう云ふ敎へを設立した根本の動機にさかのぼつて見るならば其れは同一であるのです。要するに「正しきに從へ、それが幸福の源である」と敎へてゐるのです。

質に、親が親らしく公平無私であるならば娘は其の親の意志に從つてゐることが最上の幸福であるに相違ありません。けれども、世間には頑迷無情な親、慈悲はあつても聰明を全く缺いた親が隨分少なくない。にも拘らず、唯、親である故に從はせようとする。其のために無數の悲劇が演じられることは世間周知の事實です。さうした舊道德思想に對する反逆思想が勃興したのも一面の理由はあつたのです。

　又、「十八歳になれば自分で自分の身は處置できる」と云ふ西洋流も、もと〳〵假定でありますから、必ずさうと決定されるものではない。隨分、親の忠告を必要とする場合が少なくないにも拘らず、假りに定めたさう云ふ規矩を絕對のものゝように考へて不完全な自我によつてのみ動いてゐるのも困つたことです。が、とにかく、こう云ふ問題をもつた婦人のとるべき態度は個々別々でなければならない。要するに、親

の方が正しければ親に、戀人乃至良人の方が正當ならばそちらにつくのが本當でありませう。

併し、もし、子供がある揚合には其の子供の利益と云ふことを最大條件として考慮の中へ入れなければならないことは勿論です。

× × ×

紀元以來、二千五百有餘年もの間、我が日本國民は社會生活を營んで來ました。けれども、それがあまりに無意識、盲目的でありました。故に、我が國民の大多數は今日に於ても社會生活と云ふことを全く無視してゐます。所謂知力階級、否、新人と云はれる人でも、口の先き又は筆の先きでは「社會」と云ふ言葉を盛んに使つてゐても、併し、自分の生活、殊に、自分の情緒を正しく社會的に働かせることを知りません。

故に、彼等は社會に信用がありません。友人間に、親子間に、夫婦の間に於てすら信用がありません。信用を得ることが出來ないような生活をしてゐるからです。彼等の結婚、離婚、及び、戀愛の問題は甚だ要領を得てゐません。

當事者等は要領を得てゐると思つてゐるかも知れませんが、其れは社會を無視した上でのことであつて、社會の立場から、社會正義を基礎とした目で見るならば、彼等のしてゐることは無茶苦茶です。

これを、一寸、他の方面から考へて見ませうあらゆる努力をつくして所謂成功し、物質的には何等の不自由もなく、進んで所謂社會事業に沒頭し得る程の地位にあつても、心の平和を得ることが出來ず、やゝもすれば自分をも人をも苦しめ悲劇を生み出す人が隨分少なくありません。又、他の一方には、道德問題や社會問題に關して、しかつめらしい批判を加へ、一かどの社會批評家乃至文明批評家をもつて自ら任じ、世間にもさう思はせて居るような人でも、其の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人自身の生活には少しもまとまりがない。従つて、幸福でない。

そして、これは何故かと云ふと、富も知識も充分に所有してゐながら自分自身を所有してゐない。自分自身を理解する聰明さが無いからです。

人は富があらうが無からうが、知識があらうが無からうが自分自身を所有してゐるならば、自分に備はる徳性を充分に働かし得る。そして世の中に、自分の徳性を充分に働かせて解決が出來ないと云ふ問題は無いと私は信じます。

こう斷定して見ると、親に行かうか良人につかうかと云ふ問題も、先づ、自分を所有することが先決問題です。それから先きは自然に任せて置いて何等の不都合が無い筈です。

そして、自分に歸へる近道は世間の則ち過去の他人の經驗を自分に取り入れること、云ひかへれば、「人のふり見て我がふりを直す」ことです。

これをしも出來ない人は自分で自分の問題を解決することは出來ない。人間としての權利を主張する價値はない。自己のない昔の女と同じように、親と良人との板挾みとなつて泣いて此の世を送るのが其の人の本領でありませう。

## 市民と市政

東京市政が伏魔殿と呼ばれて既に久しいものです、の伏魔殿の解剖に對して何等の反駁も無ければ、反對の證據も見せられないで居る限り、或ひはそれが事實であるかも知れません。

尾崎さんの市長に私共は何等仕事らしい仕事を見せて貰へなかつた、奥田市長の誠意ある努力は消極的に終つてゐます。田尻さんに對しては、唯だ御氣の毒といふ感を深くするのみだつた、後藤さんに至つては徒らにヒツかき廻し、ヒツぴろげただけだつた。

手まめ足まめに活動して居られる永田さんの時には聊か活氣があつたが、然しあまりにもあつけなく辭職されてしまひました。中村さんの働きぶりは華々しくはなかつたが、然し、私共は一種の安心を感じて居た。

仕事は山積してゐて捗どらずしかも、借金政策の東京市政が厄介至極なものであることは周知の事實でありますが、東京市政をしてかくの如き狀態に陷らしめた責任を市會議員にのみ歸して置こうとすることは、市民が餘りにも鈍感であることを私は此處に指摘して置かうと思ひます。

なぜなら、市會議員なるものがほんの僅で、責任念と云ふやうなものを持合せて居るなら東京市政をしてかくの如き狀態に陷らしめた責任を感じて早々引退すべきであるのに、引退どころではなく、洒々として緣がる市民の面前に叩頭百ぺんして投票の無理取りをしてゐました。

だが、歸する處、さう云ふ種類の議員を再三市會に送る市民が馬鹿なのです。

自治政體の一市民であると云ふ自覺が市民になく自己一身のことばかりに心身を勞してゐる間に、市長をして無能ならしめ、市會議員をして伏魔殿を完成せしめてゐるのです。

市民に市民としての自覺が無い限り、市議改選が何度行はれても私は聊かの期待をも持ち得ません。

## 革新會の第一義務

政界革正といふ言葉は近時盛んに用ゐられてゐます中央の大政黨ばかりでなく、地方的政黨政派の凡て

がこれを絶叫してゐる、確にこれは一大輿論であるといつてよいものです。

凡ての政黨政派が世間の信用を失つた原因はいろいろあるに相違ないが、そのうちでも最も大きな原因の一つ、即ち既成政黨に致命傷となつたものゝ一つは選擧運動費問題です。

この運動費問題は實に政界の癌となつてゐます。が、要するに、その出所が不明だからです。故にその出所を明かにすれば信用はたちどころに回復するのだが、然し、それが出來ない處に政治家の墮落があります。

今回の市議改選に際しては、先づ憲政會が蹶起して東京市政の革政を絶叫し、その前提として彼等のゐはゆる一粒選りの候補者をあげ、まんまと市政を彼等の掌中のものとした。

そして、その終結として、いよ〳〵彼等の希望する市長をかつぎ出しました。

# 運動競技に就て

そこで、我々市民は果して彼等が最初に發表した通り市政革正を實行するかどうか先づ見物するわけだが――勿論、市政革正がさう容易にだんごをこれ直すように行かないのは承知してゐるが――然しながら、彼等の最初の宣言が本物ならば、つまり誠意があつたのならば、要求されるまでもなく進んで彼等が市民のためになさねばならぬ一事があります。

すなはち三木氏の手によつてバラ撒かれたと噂されてゐる三十萬圓が何處から出たかを公表しなければなりません

政界の癌なる運動費問題を曖昧模糊にして置くならば彼等の市政革正の擧は市民を詐欺するものだといつてよいと思ひます。

所謂三十萬圓の運動費の出所を明かにすることは彼等の責任です。この責任を回避するかしないかによつて彼等の誠意の有無を私は斷定しやうとしてゐます。





Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

運動競技そのものを惡いと考へてゐる人は今頃一人も無いでせう。殊に、學生の、新興國民の活力そのものであるような、ピチ〳〵した運動ぶりは感激の涙さへ誘ふものです。

けれども、國民のうちの一部分が、否、大部分が、殊に、農業地の人々が働いても〳〵生活に追はれる、健康のために必要なだけの休養時間すらもとることが出來ない狀態にあることを考へる時に、わが國はまだ〳〵單なる運動のために、莫大なる費用と時間を費すべき時ではないと私は思ひます。

運動熱をあげてゐる人々にはそれ相當の理窟があることを私は重々承知してゐます。けれども彼等は運動といふことにばかり氣を取られて、凡てのものを共觀しようとしない、國民全部の實狀を考へて居ないことを私は遺憾とします

私のうちにも運動が面白い盛りの男の子が二人あります。けれども、生活の爲に兩親は毎日毎日働かなければならない。仕事を持つ母親に代つて一人の娘は家事のために終日たすきがけで働いてゐる。そのなかで單なる運動のために金と時間を費させることは、父親に對し、娘に對してすまないことだと私は考へて、男の子達にスポーツを許しません。

體を使ひたければ家の内外の掃除でもして、うちの手だすけをしなければならないと申つけます。幸ひに男の子達は私のその意見を承諾してゐます。

「皆で働いて、皆で一緒に樂まう」といふのが私のうちの方針です。そして、私は全國民に對してもこれと同じ方針を要求します。スポーツに熱中して居る人達も、少しは、勞働階級乃至農民の狀態に眼をおやりになることを私は希望します。

## 編輯の後

七月十八日の朝、私は、名古屋驛に到着致しました。その日、名古屋放送局に於ける講演放送を終つてから名古屋新聞主筆小林橘川氏の御好意によつて開かれた茶話會に出席致しました。

席上、小林氏の御挨拶に答へて、私は何にか云はなければなりませんでした。「名古屋市の方達に、殊に

婦人方に親しく御目にかゝり語り合ふ機會を御つくり下さつたことを感謝致します。私は名古屋の方達に御目にかゝるのが嬉しう御座います」と、云つただけでは、唯通り一ぺんの言葉、乃至、からおせじになつてしまうと云ふ氣持ちがして、私はどうしても或ることを其の場で云つてしまはなければならない衝動を感じてゐました。で、ツイに私は云つてしまひました。その大體の意味を此處に書いて見ます。

　名古屋は私が始めて講演をした處で御座います。それは大正八年の初夏の頃で御座いました。學校生活と云ふことをしたことのない私は主人からのみものを敎へられて居たので、主人が「夏期講習會があちこちに開かれるからよその先生達はどんなことをどんな風に敎へるか聽講しておゐで」と云つてゐる時でした。市川房枝さんを通して小林橘川氏が私に名古屋へ講演に來るようにと申されました

　けれども、講演を聞きに行くと云ふことは私の心の順調な流れでありましたが、「私が講演をする？」と云ふことは私の心を逆に流そうとするものでありました。それはあまりに思ひがけない、自分の氣持ちとは全くかけ離れた不思議にさへ感じられる出來事であつたのです。私は「演壇」と自分とを並べて見ただけで、もう胸がドキ／＼して來ました。そして演壇と自分とを並べてにらめてゐること一週間の後、ツイに私は「行つて見ませう」と云ひ出しました。そして、さう云ふ風に私の心を押し進め、一生の勇氣を振ひ起さしめたものは、お恥かしいことですがお金が欲しかつたのです。三日間の講演に對して拂はふと仰有つた金額が可なり私の心を惹いたのです。

　と申ますのは末期の肺病にかかつてゐる一人の友人を米國から呼びよせて世話しようとしてゐた時でしたので、金になることならどんなことでもしようと決心してゐた矢先だつたのです。

　金に緣のない生活をしてゐながら、差し當り可なりな額の金を用意しなければならない必要に迫まられてゐましたのでとう／＼私は大冒險をして見る氣になつたのです。

　且つ又、「自分では講演が出來るような氣持ちはしないけれど然し時々私の書くものを御らんになつてそして話させて見ようと小林さんが仰有るのだからいつも書くようなことを一生懸命に自分の最上を盡して話して見よう。或ひは出來るかも知れない」とも考へてゐたのでした。とにかく、生れ落ちて始めて演壇に立つのでして、當人の自分は勿論うち中が、子供達ま



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で大心配でした。うちの男の子は其の時十四でしたがいよ〳〵明朝名古屋へ立つと云ふ晩わざ〳〵私の枕もとへ來て「母さん僕達は試驗の時、試驗室へ這入るまでは胸がドキ〳〵してゐるけど這入つてしまうと却つて胸がしづまるよ。だから母さんも演壇へ登つてしまうと落ち付けるかも知れないから、あんまり心配しないでれ」と申ました。

　講演に行くとお約束した時には太平洋上を航海してゐた病人は、私が出發する時にはもううちにれてゐました。病人は私が出て行くようになつた動機などは知つてゐるのかゐないのかは分りませんでしたが、とにかく始めての講演だと云ふのでやつぱり隨分氣にしてゐて呉れたようでした。

うちでは皆が手に汗を握つて心配してゐるし、自分はハヤガネを打つように胸をわく〳〵させて聽衆の方達には隨分御迷惑であつたかも知れませんが、とにかくお話しようと思ふだけのことはしてしまいました。そして小林さん始め、皆樣から大變御親切にお世話になつておみやげまでいろ〳〵頂いて大元氣で無事歸京したのでした。「やりそこなつて恥をかいてシオ〳〵歸つて來るかも知れないと」考へてゐた主人の喜びは非常で御座いました。

　それがキツカケとなつて私は講演をするようになりましたので、講演と云ふと直ぐ名古屋を思ひます。私の心に深く刻みつけられた此の感銘は永久に消へる時は無いと思ひます。名古屋の皆樣に御目にかかつて嬉しいと申ますのがからおせじでないと云ふのはさう云ふわけで御座います。


本誌臨時定價表

| | | |
|---|---|---|
| 一冊 | 金十錢 | 送料五厘 |
| 六冊 | 前金五十五錢 | （送料共） |
| 十二冊 | 前金壹圓 | （送料共） |

雜誌代及郵税は前金の事臨御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと願郵券代用は五厘切手にて一割増廣告は御照會次第御相談いたします

大正十五年七月廿三日印刷納本
大正十五年八月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八番